

札幌市市中における オミクロンBA.5の現状と備え Ver.2

総合診療医・感染症コンサルタント
北海道科学大学/東京薬科大学客員教授
札幌市危機管理局 参与
岸田直樹

オミクロンBA.5流行期における備え

- 上位5つの症状は左図のとおりです（札幌市データより）。
- 下の表で**自分の年代**で出やすい症状を確認してみましょう。
- その症状に対処するための**薬を準備**しましょう。
 - 薬局・ドラッグストアの薬剤師や医薬品登録販売者へ相談しましょう。

1位



2位



3位



4位



5位



BA.5流行期
速報値
39956人

登録時（診断時）症状発現率

	せき	のどの痛み	鼻水・鼻づまり	たん	頭痛	関節痛・筋肉痛	強い倦怠感	呼吸が苦しい	下痢	嗅覚異常	味覚異常	味覚・嗅覚異常	38℃以上
10歳未満	44.8%	21.6%	32.0%	15.3%	20.7%	8.9%	15.9%	4.6%	8.2%	0.1%	0.8%	1.0%	58.8%
10代	57.8%	64.3%	36.3%	32.1%	45.4%	21.5%	26.9%	13.4%	8.3%	1.0%	2.8%	3.2%	50.9%
20代	68.8%	72.0%	45.6%	46.6%	49.4%	35.5%	33.7%	22.7%	8.7%	2.1%	4.5%	5.3%	42.2%
30代	64.6%	67.6%	43.0%	42.5%	50.1%	39.4%	34.6%	19.8%	9.6%	2.0%	4.4%	5.3%	40.1%
40代	62.7%	66.7%	40.3%	38.7%	45.9%	36.4%	30.4%	16.7%	8.3%	1.5%	3.5%	4.2%	33.9%
50代	66.9%	65.7%	40.4%	35.5%	42.9%	33.6%	26.0%	16.9%	7.1%	1.5%	3.3%	4.0%	29.3%
60代	69.5%	63.4%	40.2%	32.9%	31.0%	23.6%	19.1%	14.0%	4.6%	1.8%	3.2%	4.1%	22.0%
70代	65.2%	50.7%	30.9%	28.8%	17.3%	14.1%	14.0%	9.8%	3.3%	0.9%	2.5%	2.8%	14.9%
80歳以上	59.5%	33.5%	24.8%	28.4%	9.7%	7.5%	18.8%	10.5%	4.1%	0.5%	1.1%	1.1%	15.4%
総計	62.1%	60.1%	39.6%	35.6%	41.0%	28.8%	27.4%	15.8%	8.0%	1.4%	3.3%	3.9%	39.8%

風邪やインフルエンザのような経過の人が が増えていきます

- 新型コロナウイルス感染症は、「人工呼吸器が必要な肺炎」といった**重症化する可能性のある感染症**です。
- しかし、ワクチン接種や治療薬といった医療の進歩により、重症化する人の割合は大きく**減少しています**。（2022年8月2日現在）
- 非高齢成人であれば、酸素が必要になる人は**約1700人に1人**です。



中等症:酸素投与



重症:人工呼吸器

リアルタイム **重症・中等症割合比較詳細データ**
 -年代別・期間(波)別-

BA.5流行期速報値 ◆重症・中等症の割合

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	全年齢	60歳以上	20-59	
従来株 第3波 (11/1-12/31)	0.00%	0.00%	0.05%	0.57%	3.59%	6.86%	16.49%	26.01%	26.79%	7.77%	22.19%	2.14%	
アルファ株 第4波 (4/1-6/30)	0.00%	0.17%	1.24%	4.22%	9.60%	18.99%	32.17%	43.98%	48.84%	15.54%	41.69%	7.76%	
デルタ株 ワクチン+中和抗体薬	第5波前期 (7/1-8/31)	0.02%	0.63%	1.67%	5.04%	11.27%	22.46%	27.69%	31.11%	23.52%	8.36%	31.72%	7.30%
	第5波後期 (9/1-9/30)	0.26%	0.00%	1.99%	5.73%	7.05%	10.43%	10.07%	22.02%	20.56%	5.85%	20.54%	5.46%
ワクチン+中和抗体薬 +経口治療薬	10/1-1/7	0.51%	0.00%	0.40%	1.89%	1.90%	3.13%	3.03%	11.91%	8.44%	8.92%	14.49%	3.59%
ワクチン+中和抗体薬 +経口治療薬 BA.1	第6波 (1/8-4/23)	0.03%	0.01%	0.11%	0.23%	0.17%	0.48%	2.48%	5.93%	9.30%	0.79%	6.57%	0.23%
高齢者ワクチン3回接種 +保健所新規抑制 BA.2	4/25-6/30	0.04%	0.00%	0.00%	0.01%	0.11%	0.42%	1.19%	3.29%	7.49%	0.44%	4.10%	0.09%
オミクロン BA.5	7/1-8/2	0.02%	0.02%	0.01%	0.01%	0.06%	0.20%	0.29%	2.48%	7.64%	0.38%	2.59%	0.06%

ワクチン接種や治療薬といった医療の進歩により、重症化する割合は大きく減少しています。（7月現在）

高齢者で1/16、全年齢で約1/40、非高齢成人は約1/130の重症化と今はなっています

リアルタイム重症・中等症割合比較詳細データ
BA.5流行期速報値
一年代別・期間（波）別

◆重症・中等症の割合

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	全年齢	60歳以上	20-59
従来株 第3波 (11/1-12/31)	0.00%	0.00%	0.05%	0.57%	3.59%	6.86%	16.49%	26.01%	26.79%	7.77%	22.19%	2.14%
アルファ株 第4波 (4/1-6/30)	0.00%	0.17%	1.24%	4.22%	9.60%	18.99%	32.17%	43.96%	48.84%	15.54%	41.69%	7.76%
デルタ株 第5波前期 (7/1-8/31)	0.02%	0.63%	1.67%	5.04%	11.27%	22.46%	27.69%	31.11%	23.52%	8.36%	31.72%	7.30%
デルタ株 第5波後期 (9/1-9/30)	0.26%	0.00%	1.99%	5.73%	7.05%	10.43%	10.07%	22.02%	20.56%	5.85%	20.54%	5.46%
ワクチン・中和抗体 10/1-1/7	0.51%	0.00%	0.40%	1.89%	1.90%	3.13%	3.03%	11.91%	8.44%	8.92%	14.49%	3.59%
ワクチン・中和抗体 ・抗体検査 BA.1 (1/8-4/23)	0.03%	0.01%	0.11%	0.23%	0.17%	0.48%	2.48%	5.93%	9.30%	0.79%	6.57%	0.23%
高齢者ワクチン接種 ・抗体検査 BA.2 1/25-6/30	0.04%	0.00%	0.00%	0.01%	0.11%	0.42%	1.19%	3.29%	7.49%	0.44%	4.10%	0.09%
オミクロン BA.5 7/1-8/2	0.02%	0.02%	0.01%	0.01%	0.06%	0.20%	0.29%	2.48%	7.64%	0.38%	2.59%	0.06%

ワクチン接種や治療薬といった医療の進歩により、重症化する割合は大きく減少しています。（7月現在）

高齢者で1/16、全年齢で約1/40、非高齢成人は約1/130の重症化と今なっています

風邪やインフルエンザのような経過の人が増えています

- 今後の変異株の出現と、その**特徴の変化に注意**が必要ですが、持続的に存在し続ける感染症となりつつあるなか、上手にコロナとつきあっていくことができます**重要**となります。
- 上手につきあっていくひとつの知識として、症状に対処する**セルフケア（自分自身で対処する）**のアプローチができるようになることが大切です。
- この知識は、風邪やインフルエンザの様な症状を呈する**他の感染症に対しても、とても役に立つ**知識です。
- ポイントは次の2つになります。

① **各症状のセルフケアの方法を知る**

② **受診のサインを見逃さない**

受診すべきサインを見逃さずに、受診せず対処できる方法をうまく活用しましょう。自分で判断するだけでなく、**医療機関以外の相談先（ドラッグストア・薬局・相談センターなど）**を上手に利用しましょう。

（サイン：症状などのことを指します）

@札幌市データ

風邪症状とは？

－ 3症状チェック！ －

本書の
キーワード

1

かぜの3症状チェック

以下の**3**症状が

急性に

同時に

同程度

かを確認！

1

はな

くしゃみ・鼻水・鼻つまり

3

せき

咳・痰

2

のど

咽頭痛(嚙下時痛)や
イガイガ感

※特に“はな”症状があれば
重篤な疾患の可能性は低い。

- 風邪症状の有無をチェックができるようになりましょう。
- 風邪症状とは、**せき・はな・のどの3つの症状**を指します。
- だるい（倦怠感）、痛い（関節の痛み・筋肉の痛み）、発熱は、特定の部位の症状ではなく、全身に現れる症状（全身症状）と捉えましょう。
- 熱に伴ってのみ出る頭痛も全身症状の一つのことが多いでしょう。

BA.5流行期の症状頻度

- 風邪の3症状（せき・のどの痛み・鼻みず）がすべてある患者が4～5人に1人（23%）いました。
- つまり、通常の風邪とコロナを症状から区別することはBA.5でも基本的には**困難**ですが、コロナでも重症化しない人が増えています。
- 上手にセルフケアを活用し、受診のタイミング（**レッドフラッグサイン**）を見逃さないようにしましょう。



3症状どれも
同じくらいあれば
風邪とされます

BA.5流行期
速報値
39956人

	登録時（診断時）症状発現率												
	せき	のどの痛み	鼻水・鼻つまり	たん	頭痛	関節痛・筋肉痛	強い倦怠感	呼吸が苦しい	下痢	嗅覚異常	味覚異常	味覚・嗅覚異常	38℃以上
10歳未満	44.8%	21.6%	32.0%	15.3%	20.7%	8.9%	15.9%	4.6%	8.2%	0.1%	0.8%	1.0%	58.8%
10代	57.8%	64.3%	36.3%	32.1%	45.4%	21.5%	26.9%	13.4%	8.3%	1.0%	2.8%	3.2%	50.9%
20代	68.8%	72.0%	45.6%	46.6%	49.4%	35.5%	33.7%	22.7%	8.7%	2.1%	4.5%	5.3%	42.2%
30代	64.6%	67.6%	43.0%	42.5%	50.1%	39.4%	34.6%	19.8%	9.6%	2.0%	4.4%	5.3%	40.1%
40代	62.7%	66.7%	40.3%	38.7%	45.9%	36.4%	30.4%	16.7%	8.3%	1.5%	3.5%	4.2%	33.9%
50代	66.9%	65.7%	40.4%	35.5%	42.9%	33.6%	26.0%	16.9%	7.1%	1.5%	3.3%	4.0%	29.3%
60代	69.5%	63.4%	40.2%	32.9%	31.0%	23.6%	19.1%	14.0%	4.6%	1.8%	3.2%	4.1%	22.0%
70代	65.2%	50.7%	30.9%	28.8%	17.3%	14.1%	14.0%	9.8%	3.3%	0.9%	2.5%	2.8%	14.9%
80歳以上	59.5%	33.5%	24.8%	28.4%	9.7%	7.5%	18.8%	10.5%	4.1%	0.5%	1.1%	1.1%	15.4%
総計	62.1%	60.1%	39.6%	35.6%	41.0%	28.8%	27.4%	15.8%	8.0%	1.4%	3.3%	3.9%	39.8%

レッドフラッグサインとは？

本書の
キーワード

4

レッドフラッグサイン

レッドフラッグサインとは「危険な徴候」のことで、重篤な疾患を疑うサイン（気づき）として医師は使います。すべての疾患を診断することが目的ではない薬局や在宅では、このレッドフラッグサインを見逃さないという姿勢がさらに大切になります。薬局や在宅では緊急性のサインというほど重篤なものイメージではなく、「医療機関を受診させたほうがよい徴候」、「医師に的確に伝えるべき徴候」として広くとらえるとよいでしょう。レッドフラッグサインがないか常に注目するようにしてください。

本書で提示しているレッドフラッグサインは、あくまでも医師の世界で言われているものを薬局向けに著者が独自に修正したものです。よって、薬局・在宅ではそれとよいとコンセンサスが得られたものではありません。よって、このレッドフラッグサインはその使い方だけではなく注意点があります。

使い方①

各指標でレッドフラッグサインの有無を必ず確認します。一つひとつ聞くのは大変ですので、患者さんにチェックリストとして記入してもらいましょう。

注意点①

レッドフラッグサインがなくても「絶対大丈夫です」とは言わないように。「現時点では緊急のサインはなさそうです」と言いましょう。

注意点②

「レッドフラッグサインがなくても医療機関を受診しなくてもよいです」とは言わないように。「判断が難しいとか、症状が続くようならまた薬局に来てご相談ください」と、一緒に診る姿勢を示しましょう。

使い方②

レッドフラッグサインを使って、「今後このような症状が出ないか注意してくださいね」と医療機関受診のタイミングを説明する素材として利用するのも大切です。

使い方③

レッドフラッグサインを用いて、薬局で患者さんに薬の資料を作成するとよいでしょう。患者さんはたくさん情報を覚えられないことが多いです。

注意点③

本書のレッドフラッグサインは国が認めたような、コンセンサスが得られたものではありません。可能であれば、受診機関の基準はその地域の医療機関や在宅医と話し合っておくのがよいでしょう。

- レッドフラッグサインとは、「命に関わる危険な徴候」のことで、重篤な病態となっているサインとして医師は使います。
- セルフケアにおいては、ここまで重篤な状態ではなく、**医療機関を受診するサイン**と考えましょう。

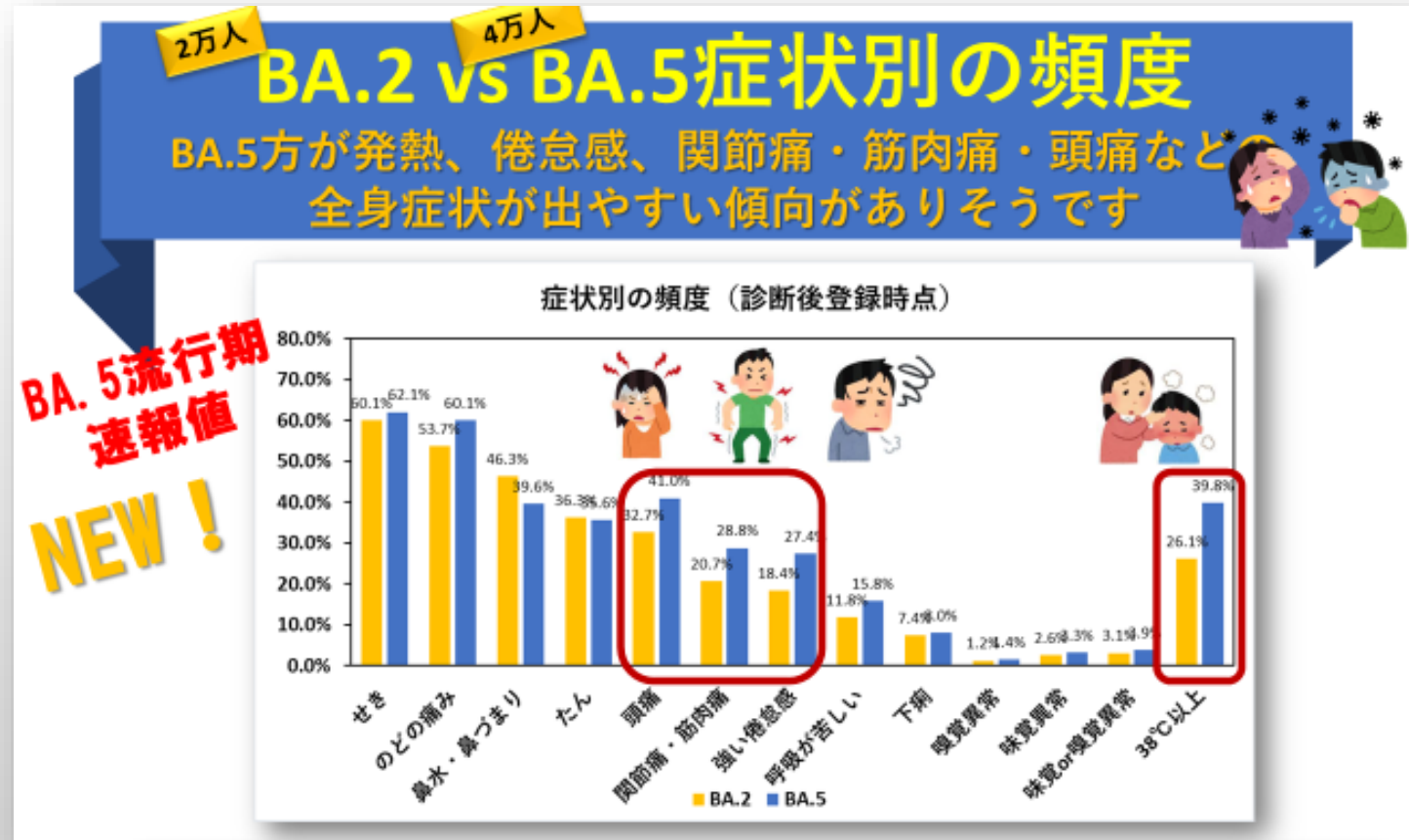


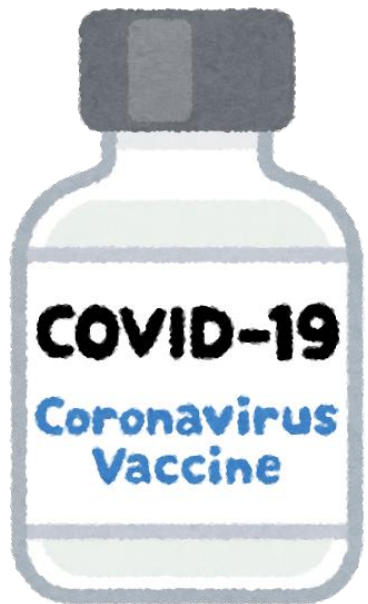
「総合診療医が教えるよくある気になるその症状 レッドフラッグサインを見逃すな!」より

BA.5流行の症状の特徴



- BA.5流行期では、BA.2流行期とくらべて発熱、だるさ、関節の痛み・筋肉の痛み・頭痛などの**全身症状が出やすい**傾向がありそうです。
- 頻度としては**風邪症状が多い**のは、BA.2の時と変わりありません。





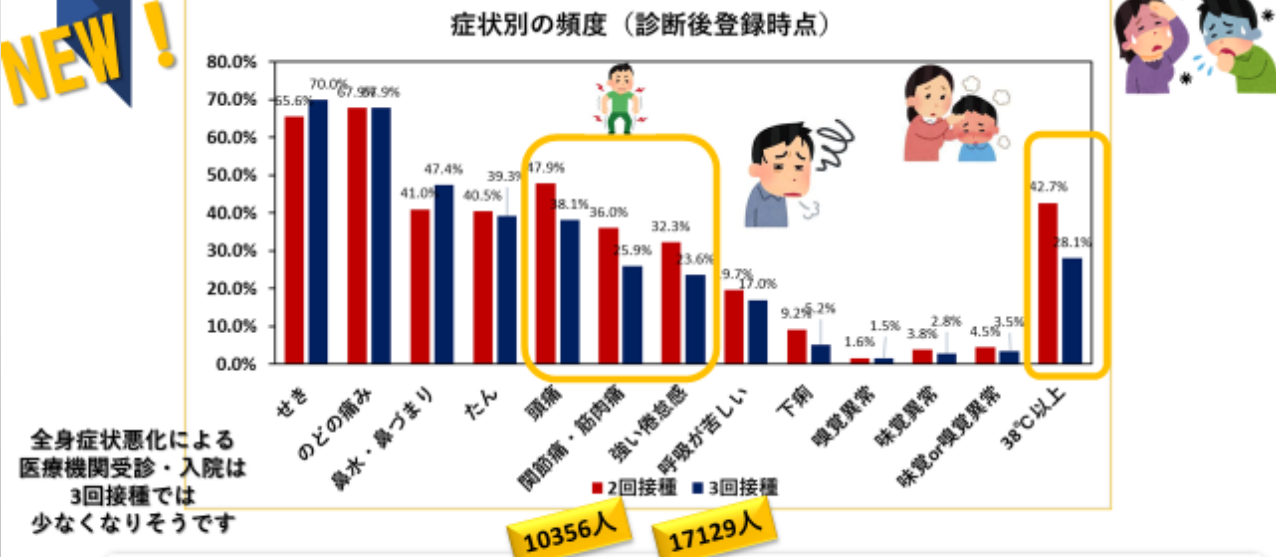
ワクチン接種で症状緩和 BA.5流行の症状の特徴

- BA.2と比較してBA.5では発熱などの全身症状が出やすい傾向がありますが、**ワクチン接種3回の方では、全身症状が出にくくなっています。**
- ワクチン接種と合わせて、上手にセルフケアを活用しましょう。

BA.5流行下でのワクチン接種回数による 症状頻度データ (2回 vs 3回)

ワクチン3回接種者の方が熱、倦怠感、関節痛・筋肉痛、頭痛といった全身症状が出にくい傾向がありそうです

NEW!



- BA.2と比較してBA.5では発熱などの全身症状が出やすい傾向がありますが、ワクチン接種3回の方では、全身症状が出にくくなっています。上手にセルフケアを活用しましょう。
- 味覚・嗅覚異常もワクチン接種者で少ない傾向がありそうです。



コロナの 各症状への対処法

自然に良くなると言っても、つらいものです

対症療法の基本的な考え方



- 「風邪も多くの新型コロナも自然に治るもの」といっても、その症状はつらいものです。
- 上手に症状を調整して、セルフケアもひとつの選択肢とできるようにしましょう。
- 医療機関では、長時間待たされたり、別な感染症をもらってしまう可能性もあります。

- ところで、この各症状ですが、**感染症を良くしようとしている身体の防御機構**でもあります。
- よって、完全に無くするのも良くはありません。
- 我慢できるくらいか？ つらいかどうか？ が重要ですが、感じ方は個人個人で差があります。

咳（せき）



- 咳はつらい症状のひとつですね。1回の咳で2キロカロリー消費するといわれています。
- 数メートルは飛散しますので、咳エチケットとしてのマスク着用が重要です。
- 咳にもっともデータがある薬はデキストロメトルファン（商品名：メジコン）と言われます。
- この薬は薬局やドラッグストアでも購入可能で、医療機関と量も変わりません。
- 風邪症状には漢方薬もおすすめで、咳には麦門冬湯（ばくもんどうとう）が有名です。
- はちみつ入りののど飴もおすすめです。（はちみつに咳止め効果あります）



【製品の例】

鼻（はな）



- 風邪症状の鼻水に効く薬はあまりありません。
- ロラタジン（商品名：クラリチン）は臨床データがある（効果がある）とされている方です。
- 市販でもクラリチンは医療機関と同量で販売していますが、風邪症状の鼻水ではなく、アレルギー性鼻炎向けとしての販売になっています。
- 風邪症状には漢方薬もおすすめで、鼻症状には小青竜湯（しょうせいりゅうとう）が有名です。
- 鼻うがいもしても良いですが、まわりに飛びちらさせないよう注意しましょう。



【製品の例】



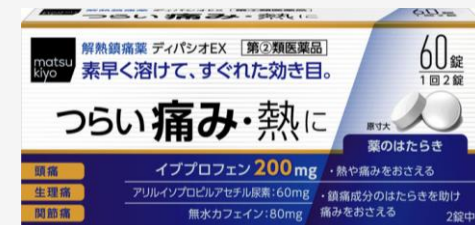
喉（のど）



- 風邪症状の、「のどいた」に使う薬は、いわゆる解熱鎮痛剤になります。
- アセトアミノフェン（商品名：タイレノールなど）は臨床データがある（効果があるとされている）方です。
- 市販のアセトアミノフェンは、医療機関よりも1回にのむ量が少なめです。医療機関では1回300mg～500mg使用します。（1日1500mg）
- 風邪症状には漢方薬もおすすめで、喉には桔梗湯（ききょうとう）が有名です。おちょこ1杯分（50ml）くらいのぬるま湯に溶かして、それでうがいしてそのまま飲み込むのがオススメです。
- うがい薬でうがいをしても良いですが、まわりに飛散させないように注意しましょう。市販の美味しいのど飴で症状を和らげるのが良いでしょう。



ロキソニンは効果は高いですが、症状が軽くなって安心し、受診が必要なタイミングが遅れる可能性があります。ロキソニンまで使わないと辛いと思う場合は受診を検討しましょう。アセトアミノフェン以外としては、イブプロフェンが風邪症状にはデータがあり、ちょうどよいとされます。



【製品の例】

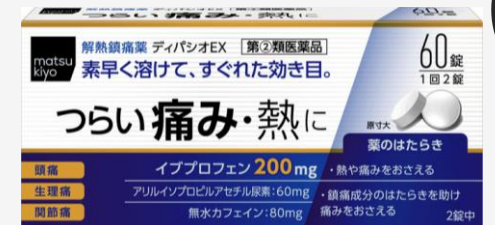
熱



- 風邪症状の、「熱」に使う薬は、いわゆる解熱鎮痛剤で、解熱鎮痛剤の選択は喉への薬と同じです。
- アセトアミノフェン（商品名：タイレノールなど）は臨床データがある（効果があるとされている）方です。
- 市販のアセトアミノフェンは、医療機関よりも1回にのむ量が少なめです。医療機関では1回300mg～500mg使用します。（1日1500mg）
- 熱やふしぶしの痛みなど全身症状には、漢方薬では麻黄湯や葛根湯も選択肢になります。ただし、風邪の引き始め（最初の数日）のみにしましょう。



ロキソニンは効果は高いですが、症状が軽くなって安心し、受診が必要なタイミングが遅れる可能性があります。ロキソニンまで使わないと辛いと思う場合は受診を検討しましょう。アセトアミノフェン以外としては、イブプロフェンが風邪症状にはデータがあり、ちょうどよいとされます。



【製品の例】



水分補給

- 水分が十分取れていれば、食事が十分とられていなくても健常成人は大きな問題となることは少ないとされます。
- 夏の暑い時期でコロナ罹患中はいつも以上に水分補給をしっかりとしましょう。
- 水分補給の考えは、熱中症予防と基本的には変わりありません。
- **「飲む点滴」**といわれる経口補水液(OS-1®など)は点滴と効果は大きな違いが無いとされます。医療機関を受診して、痛い思いをして何時間もベッドで点滴するくらいなら、自宅で経口補水液(OS-1®など)で対応するというのも一つの選択肢です。アップル味が新登場しています。
- 持病のない非高齢者であれば、通常のスポーツドリンクでも良いと考えます。
- 塩分摂取が重要ですので、塩っ気のあるスープもおすすめです。
- おしっこの量が減っていないか、体重が減っていないかを毎日確認しましょう。



【製品の例】

【総合感冒薬の注意点】

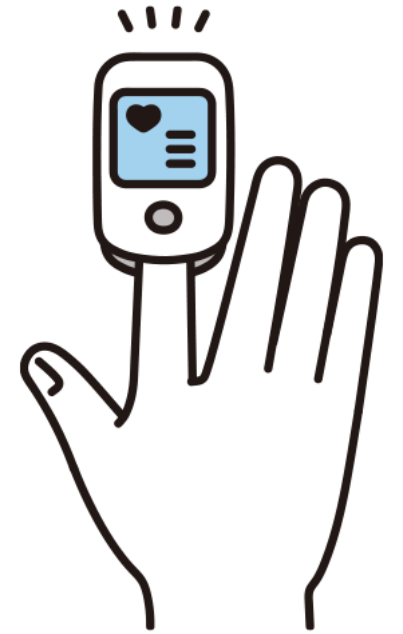
- ウイルス感染症は、たくさんの症状がでるのが特徴ですので、たくさんの症状に対応する総合感冒薬が選択肢の一つになります。
- 市販薬でも医療機関で出すものと変わらないものが発売されています。
- “総合”は良さそうですが、必要ないものも入っている可能性がありますし、副作用でいくつか注意点があります。
- **眠気が強くなる薬**が入っていますので、内服後は運転など注意しましょう。
- 原則として、高齢者は使用しない方が良いでしょう。高齢者では、ふらつき・転倒のリスクがあることや、**おしっこが出にくくなる**可能性があります。
- 使用するときでも、頓服（つらいときのみ使用）が良いでしょう。



【製品の例】

パルスオキシメーターの使用法

- 文明の利器を上手に使うことは、これからの時代のセルフケアでは重要です
- パルスオキシメーターは血中の酸素飽和度をみるもので、健常人は98%以上あることがほとんどです
- 市販のものは医療機関のものよりも精度が低いことがあります（低めに出ることが多いとされます）
- 普段から適切な値がでるか？どの指が出やすいか？普段のベースラインの値を確認しましょう
- 95%以下、もしくはベースラインの値より数%程度低い場合で呼吸の苦しさがある場合は受診を検討しましょう
- 低い場合は、指を変えても同じような値が出るかを確認しましょう



コロナのレッドフラッグサイン チェックリスト



【咳（せき）】

- 肺気腫など肺に持病がある
- 咳をしたり、呼吸をしたりすると胸が痛い
- 呼吸が苦しい
- SpO2 ≤ 95%もしくは、普段の測定値からの低下を認める場合
- 2～3週間以上咳が続く場合

【鼻（はな）】

- 片側のほっぺが痛い
- 下を向くとほっぺが痛い
- 鼻水が強く、上の歯も痛い

【喉（のど）】

- ご飯が食べられないほどが痛い
- ロキソニン®を使わないといけないと思うほどの痛み
- 喉が痛く、口が開けにくい
- 喉が痛く、呼吸もしにくい（特に仰向けで悪化）
- 喉が痛い、つばを飲み込んでも痛くない
- 突然の喉の痛み

【全身症状】

- 38℃以上の発熱が3日以上続く
- ガチガチするほどの悪寒がある場合
- シャツを交換するほどの寝汗をかく場合
- 水分がとられない
- 口が乾き、おしっここの量が少ない

これらの**レッドフラッグサイン**がある場合は受診することを考えましょう

【以下の基礎疾患などある方】

- 75歳以上の高齢者
- BMI 30kg/m²超
- 免疫抑制疾患又は免疫抑制剤の継続投与
- 慢性肺疾患（喘息は、処方薬の連日投与を要する場合のみ）
- 心血管疾患（心筋梗塞、脳卒中など）
- 活動性の癌
- 透析患者
- 神経発達障害（脳性麻痺、ダウン症候群等）

こちらに該当する場合は、より積極的に受診を考えましょう

“飲めない”、“歩けない”、“息苦しい”、は救急車を検討しましょう



治療薬の適応患者

- 60 歳以上
- BMI 25kg/m²超
- 喫煙者（過去 30 日以内の喫煙があり、かつ生涯に100 本以上の喫煙がある）
- 免疫抑制疾患又は免疫抑制剤の継続投与
- 慢性肺疾患（喘息は、処方薬の連日投与を要する場合のみ）
- 高血圧の診断を受けている
- 心血管疾患（心筋梗塞、脳卒中、一過性脳虚血発作、心不全、ニトログリセリンが処方された狭心症、冠動脈バイパス術、経皮的冠動脈形成術、頸動脈内膜剥離術又は大動脈バイパス術の既往を有する）
- 1 型又は 2 型糖尿病
- 限局性皮膚がんを除く活動性の癌
- 慢性腎臓病
- 神経発達障害（脳性麻痺、ダウン症候群等）又は医学的複雑性を付与するその他の疾患（遺伝性疾患、メタボリックシンドローム、重度の先天異常等）
- 医療技術への依存（SARS-CoV-2 による感染症と無関係な持続陽圧呼吸療法 60 歳以上 6 1 歳以上など）



【セルフケアの学び参考資料】

厚生労働省 医政局長賞

民間団体部門 優秀賞



医政局長賞
優秀賞

プロジェクト

風邪はセルフケア!
薬局・ドラッグストアで相談しよう!

受賞者

一般社団法人 Sapporo Medical Academy

所在地 北海道札幌市

電話 090-4879-3271

URL <https://kiccysma.wixsite.com/smaweb>

E-mail kiccy1975@gmail.com

取組の経緯

みんなで関わろう!体調不良時の相談先は薬局・ドラッグストアも選択肢に!

- 未曾有の少子高齢化・人口減少を迎え、医療費の高騰や医療者のマンパワー不足など早急に対処しなくてはならない大きな課題が医療現場にはたくさんあります。
- 日本は医療アクセスが非常に良く、故に医療機関を気軽に受診できる為「コンビニ受診」が起きやすい環境です。
- 風邪を代表に、セルフケアとしてOTC医薬品での対症療法のみで対応可能な疾患群でも医療機関を受診し、患者さんであふれかえり、医師を含め少ない医療従事者からなる医療現場の負荷となるだけではなく、医療費の高騰などにもつながっているのが現状です。
- さらにこのような医療現場では診療時間も十分にとられないことも多く、薬に関する説明や健康管理に関する相談にも十分に対応できないことが多くなっています。
- 体調不良時などに何でも医師、何でもクリニックや病院で対応するのではなく、薬局やドラッグストア、在宅現場などでも医師以外の多職種で対応する全員総力戦でのサポート体制がより重要となっています。
- 国民の安心・安全のためにも、セルフケアを担当する医療従事者の医療の進歩に合わせた適切な教育が重要です。

事業の概要と特徴

セルフケアをサポートできる医療者に必須のスキル「臨床推論」を学ぼう!

1. 患者さんの症状からセルフケア可能な状態かを判断するための「臨床推論」を学びます
患者さんの症状にアプローチする医療従事者になるためには臨床推論の知識・技術が必須です。OTCで対処可能な疾患群の知識の習得に加え、緊急性のある病態の判断など受診動向のタイミング(レッドフラッグサイン)を見逃さないための考え方を習得します。「総合診療医が教えるよくある気になるその症状 レッドフラッグサインを見逃すな!」(しほろ)、「薬学管理に生かす臨床推論」(日経BP)をテキストとして作成。
2. 臨床推論を駆使して的確に患者情報を医師に「伝える方法」を習得します
患者の状況をどのように医師など医療従事者どうして伝えるか?は受診動向とする場合などチーム医療において在宅などでも必須のスキルです。臨床推論により考えた医療従事者のアセスメントを医療従事者どうして伝えるコミュニケーションスキル、ディスカッション法を学びます。
3. セルフケアの大切さを伝える学びの場を地域で提供できるようになるスキルを習得します
今後、自分たちでセルフケアをサポートする医療者になる為の学びを地域で運営できるようになることが重要です。レクチャーやケースカンファレンスのスキルなど、社内や地域の薬局・ドラッグストアで臨床推論の知識・技術を提供できるようになるためのノウハウを学習します。



セルフケアの臨床推論テキスト

医療のかかり方を変えていくポイント

日本が迎える社会背景に合った新しい医療の形をみんなで創ってこう!

- 薬剤師や医薬品登録販売者だけでなく、在宅などセルフケアで対応可能な患者の症状に関わる現場にいる医療従事者にこの教育カリキュラムをさらに広げ、対応することができれば、日本が迎えている未曾有の少子高齢化人口減少社会に医療の側面から立ち向かうことができると考えます。
- このカリキュラムがセルフケアに関わりうるすべての医療従事者の新しいスキルとなるよう活動していければと思います。臨床推論は新しい時代のチーム医療の共通言語(コミュニケーションツール)になると考えます。
- さらに、一般市民への風邪を中心としたセルフケア教育へと広げていくことが重要だと考えます。例えば風邪や胃腸炎はセルフケア疾患であり、それを判断する中心は一般市民一人一人なのです。
- 今後、風邪症状を中心としたセルフケアの方法、特に医療機関の受診のタイミングを義務教育の一つのカリキュラムとして構築していきたいと考えます。
- この活動は、「上手な医療のかかり方」をサポートすることにつながり、医療負荷や医療費問題に貢献します。さらに、抗菌薬処方も減らし新型コロナウィルスとともに感染症の脅威とされる耐性菌対策にもつながると考えます。

民間団体部門
優秀賞